

国立民族学博物館研究報告 vol.2-4; 表紙, 目次ほか

雑誌名	国立民族学博物館研究報告
巻	2
号	4
発行年	1978-02-02
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009263

1977・12 2_卷4_号

国立民族学博物館 研究報告



論文

物質文化から見た現代家庭——栗田靖之

伝統的漁撈における技能の研究——

下北半島・大間のババガレイ漁——秋道智彌



資料・研究ノート

守護聖人の祭りにみられる民俗芸能について

——メソ・アメリカの例の比較の試み——黒田悦子

古宇利島の聖地と折目——沖縄の民俗宗教ノート(2)——伊藤幹治

中国地方タケカゴ細工の一側面

——日本列島におけるカゴ細工の諸系列(5)——中村俊亀智

コスタ・ヘタグロフ著『オーソバ』——オセチア人の民族学的概説——加藤九祚



国立民族学博物館

〒565 大阪府 吹田市 千里 万国博記念公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

2 卷 4 号

1977年12月

目 次

論 文

- 物質文化から見た現代家庭栗 田 靖 之.....643
- 伝統的漁撈における技能の研究
——下北半島・大間のババガレイ漁——秋 道 智 彌.....702

資料・研究ノート

- 守護聖人の祭りにみられる民俗芸能について
——メソ・アメリカの例の比較の試み——黒 田 悦 子.....765
- 古宇利島の聖地と折目
——沖縄の民俗宗教ノート(2)——伊 藤 幹 治.....790
- 中国地方タケカゴ細工の一側面
——日本列島におけるカゴ細工の諸系列(5)——中 村 俊 亀 智.....806
- コスタ・ヘタグロフ著『オーソバ』
——オセチア人の民族学的概説——加 藤 九 祚.....828

- 彙 報874
- 国立民族学博物館研究報告 2 卷総目次878
- 国立民族学博物館研究報告寄稿要項880
- 国立民族学博物館研究報告執筆要領881

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 2 No. 4

December 1977

KURITA, Yasuyuki	The Modern Japanese Family as Seen through Material Culture.....643
AKIMICHI, Tomoya	An Ecological Survey on the Slime-flounder Fishery at Oma, Japan—Optimal Fishing and Human Skills—.....702
KURODA, Etsuko	Notes on the Fiesta Complex of a Patron Saint in Mesoamerica—A Comparative Analysis with Emphasis on Data from the Highland Mixe Village of Tlahuitoltepec and Ayutla, Oaxaca, Mexico—.....765
ИТОH, Mikiharu	The Sacred Groves and Rites of Kouri Island—Notes on Folk Religion in Okinawa (2)—.....790
NAKAMURA, Takao	Basket-working in Japan (5): Chūgoku Area.....806
KATO, Kyuzo	Explanatory Notes and a Translation on “OSOBA” by Kosta Hetagurov.....828

彙報 (昭和52年7月～
昭和52年9月)

人事異動

昭和52年

7月1日 永野茂信(長岡工業高等専門学校庶務課長)は、管理部庶務課長に配置換

松嶋義文(管理部庶務課長)は、愛媛大学庶務部庶務課長に配置換
安富治夫(奈良工業高等専門学校会計課)は、管理部展示課に転任

8月1日 田主誠稔を事務官(管理部展示課陳列係長)に採用

中島聖勝(情報管理施設技術室電子計算機係長)は、大阪大学大型計算機センター業務掛長に転任

9月1日 中島聖勝(大阪大学大型計算機センター業務掛長)は、情報管理施設技術室電子計算機係長に併任

国際シンポジウムの開催

(The 1st International Symposium, Division of Ethnology, The Taniguchi Foundation)

テーマ 「東アフリカ牧畜民における部族関係——戦争と平和——」

(INTER-TRIBAL RELATIONS AMONG
EASTERN AFRICAN PASTORALISTS
—WAR AND PEACE—)

日時 昭和52年9月7日(水)—14日(水)

場所 国立民族学博物館, 東洋紡績総合研究所求是荘

摘要 東アフリカをフィールドとしている文化人類学者を中心として、ヨーロッパ、アメリカからも6名の研究者を招聘して国際シンポジウムが、本館ならびに財団法人民族学振興会千里事務局の共催、財団法人谷口工業奨励会45周年記念財団の後援によって、開催された。シンポジウムの前半は本館で、後半の3日間(9月12日-14日)は、東洋紡績総合研究所求是荘に場所を移して

行われた。館内外からの多数の参加者をえて、期間内に10のセッションと統合討論を消化するという厳しい日程にもかかわらず、終始、活発な討論が展開された。今後、に実り多い成果が期待されている。

組織委員会

委員長

梅棹 忠夫 国立民族学博物館長

委員

祖父江孝男 国立民族学博物館第1研究部長・教授

佐々木高明 国立民族学博物館第2研究部長・教授

富川 盛道 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授

宮本 繁雄 国立民族学博物館管理部長

実行委員会

委員長

福井 勝義 国立民族学博物館第3研究部助教授

委員

江口 一久 国立民族学博物館第3研究部助教授

端 信行 国立民族学博物館第3研究部助教授

松原 正毅 国立民族学博物館第2研究部助教授

和田 正平 国立民族学博物館第3研究部助教授

事務局

湯浅 勲子 財団法人民族学振興会千里事務局事業部長

宇治日出二郎 財団法人民族学振興会千里事務局事業部事業課長

尾崎 洋子 財団法人民族学振興会千里事務局事業部事務員

小山 修三 国立民族学博物館第4研究部助教授

秋道 智彌 国立民族学博物館第2研究部助手

宮本 勝 国立民族学博物館第5研究
部助手
中牧 弘允 国立民族学博物館第1研究
部助手
田邊 繁治 国立民族学博物館第2研究
部助手
森川 国雄 国立民族学博物館管理部庶
務課共同利用係長

日 程

9月7日(水)

13:00—13:30

開会の辞 伊藤 幹治
キイノート・スピーチ 梅棹 忠夫
“African Studies by Japanese Anthro-
pologists”

13:40—16:40

セッション1 座長 富川 盛道
報告者 U. ALMAGOR
テーマ “Raiding, Endogamous Alter-
nations and the Scarcity of
women”

コメント P. T. W. BAXTER

9月8日(木)

9:40—12:40

セッション2 座長 U. ALMAGOR
報告者 P. T. W. BAXTER
テーマ “Boran”
コメント A. H. JACOBS

14:00—17:00

セッション3 座長 U. ALMAGOR
報告者 S. TORNAY
テーマ “Contemporary Armed Con-
flicts in the Lower Omo Valley
(1970—1976), an Analysis from
within Nyangatom Society”

コメント D. TURTON

9月9日(金)

9:00—12:00

セッション4 座長 A. H. JACOBS
報告者 D. TURTON
テーマ “The Role of Warfare and

Population Movements in the
Formation of Ethnic Groups:
the Case of the Mursi and the
Bodi”

コメント 福井 勝義

13:00—16:00

セッション5 座長 A. H. JACOBS
報告者 福井 勝義
テーマ “Color Symbolism of Cattle
and Warfare: Social Integration
and Inter-Tribal Slaying in the
Bodi”

コメント U. ALMAGOR

16:30—19:30

セッション6 座長 A. H. JACOBS
報告者 D. TODD
テーマ “War and Peace Between the
Bodi and Dime of Southwest
Ethiopia”

コメント S. TORNAY

9月10日(土)

10:00—13:00

セッション7 座長 P. T. W. BAXTER
報告者 A. H. JACOBS
テーマ “Maasai Inter-Tribal Rela-
tions: Belligerent Herdsmen or
Peaceable Pastoralists?”

コメント 富川 盛道

14:00—17:00

セッション8 座長 P. T. W. BAXTER
報告者 富川 盛道
テーマ “Inter-Tribal Relations of the
Datoga with their Neighbors”

コメント A. H. JACOBS

9月12日(月)

13:00—16:00

セッション9 座長 U. ALMAGOR
報告者 E. FRATKIN (ペーパー参加)
テーマ “The Marginal Role of the
Iloibonok Divergers in Samburu
Warfare”

コメント P. T. W. BAXTER
 9月13日(火)
 9:00—10:30
 総合討論(1) 座長 米山 俊直
 問題提起者 U. ALMAGOR,
 P. T. W. BAXTER,
 A. H. JACOBS
 10:45—12:30
 総合討論(2) 座長 A. H. JACOBS
 14:00—15:00
 総合討論(3) 座長 S. TORNAY
 15:00—15:45
 出版に関する討議
 16:00—17:30
 自由討論 座長 谷 泰
 テーマ 「日本における人類学研究」
 17:30—17:40
 閉会の辞 梅棹 忠夫
 P. T. W. BAXTER
 9月14日(水)
 9:00—12:00
 出版編集に関する具体的討議
 座長 福井 勝義
 参加者
 ・報告者
 Uri ALMAGOR Senior Lecturer, Department of Sociology and Social Anthropology, The Hebrew University of Jerusalem
 Paul T. W. BAXTER Senior Lecturer and Tutor, Department of Social Anthropology, University of Manchester
 福井 勝義 国立民族学博物館 助教授
 Alan H. JACOBS Professor and Chairman, Department of Anthro-

pology, Western Michigan University
 谷 泰 京都大学人文科学研究所 助教授
 富川 盛道 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 教授
 David TODD Research Fellow Imperial College of Science and Technology, Industrial Sociology Unit
 Serge TORNAY Lecteur, Laboratoire d' Ethnologie et de Sociologie Comparative, Université de Paris X
 David TURTON Senior Lecturer, Department of Social Anthropology, University of Manchester
 ・討論者
 日野 舜也 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 助教授
 伊谷純一郎 京都大学理学部 助教授
 田中 二郎 京都大学霊長類研究所 助教授
 和田 正平 国立民族学博物館 助教授
 米山 俊直 京都大学教養部 助教授

館内合同研究会
 昭和52年

9月20日 「ハワイの日系多国籍宗教」
 中牧 弘允
 「民族誌映画の実際と問題点」
 大森 康宏

海外における研究・調査・収集活動

氏名	所属・官職	出発	帰国	行先
和田 正平	(第3研究部助教授)	52. 7. 1	52. 8. 31	連合王国, ナイジェリア, カメルーン, 中央アフリカ, ケニア, エチオピア, スーダン, エジプト

彙 報

小谷 凱宣 (第1研究部助教授)	52. 7. 3	52. 9. 12	アメリカ合衆国
吉田 集而 (第2研究部助手)	52. 7. 17	52. 8. 5	インドネシア共和国
須藤 健一 (第3研究部助手)	52. 8. 10	52. 9. 20	マリアナ諸島, カロリン諸島, パ ラオ諸島, マーシャル諸島, アメ リカ合衆国
君島 久子 (第1研究部教授)	52. 8. 15	52. 8. 28	中華人民共和国
田邊 繁治 (第2研究部助手)	52. 8. 21	52. 9. 10	タイ

来館者抄

昭和52年

7月7日 林 雄二郎 (財団法人トヨタ財
団専務理事)

7月11日 Keir DAVIDSON (イギリス・
Reeds University)

7月26日 石井 健一 (姫路工業大学教
授)

7月27日 齊藤 広志 (ブラジル・サンパ
ウロ大学教授)

8月16日 国際理解教育 日米合同ワーク
ショップ
Jackson H. BAILEY (Earlham
College 教授)
Betty BULLARD (Asia Society
教育部長)
Robin McKeown (California
大学教授)
永井 滋郎 (広島大学教授)
正井 泰夫 (筑波大学教授)
構上 泰 (文部省初等中等教
育局教材調査官)
広津 和夫 (福岡県教育センタ
ー研究主事)

8月23日 高木 徑子 (アメリカ合衆国・マ
サチューセッツ大学
ボストン校助教授)
宮崎 信江 (ブラジル・サンパ
ウロ大学附属博物館
館員)

9月5日 江原 昭善 (京都大学教授)
中国博物館建築考察団
宋 汝 琴 (北京市建築設計院
長)
趙 有 光 (中国歴史博物館辦
公室副主任)
宣 祥 鑾 (北京市建築設計院
副院長)
秦 濟 民 (北京市建築設計院
技師)
陳 謀 莘 (北京市建築設計院
技師)
劉 紹 敏 (北京市建築設計院
技師)
那 景 成 (北京市建築設計院
技師)
茅 定 鰲 (北京市建築設計院
技師)
沈 振 平 (北京市建築設計院
技師)
施 力 行 (中国歴史博物館美
術工芸班責任者)

9月12日 中村 光男 (インドネシア・
Social Science
Research Training
Station)

9月14日 Robert DAHL (アメリカ合衆国
・エール大学教授)

9月22日 川村 俊蔵 (京都大学教授)

国立民族学博物館研究報告 2巻 総目次

2巻1号

論文

- 祖父江孝男：文章完成法テストよりみたイタリア人のパーソナリティ：
日本人およびアメリカ人との比較分析…………… 1
- 君島 久子：竜神（竜女）説話と竜舟祭(1)…………… 34

資料・研究ノート

- 櫻井 哲男：民俗音楽の概念についてのひとつの試み…………… 63
- 宮本 勝：ハヌヌー・マンギャン社会の構成について…………… 84
- 中山 和芳：ニューギニア高地における一時的狂気の構造…………… 123
- 杉本 尚次：九州地方の民家研究展望…………… 141
- 中村俊亀智：関東地方のタケカゴ細工の展開
——日本列島におけるタケカゴ細工の諸系列(2)—— …… 172
- 藤井 龍彦：中央アンデスのチャンカイ文化と天野博物館について…………… 196

調査研究活動報告

- 和田 正平：東アフリカ収集調査ノートより…………… 227

2巻2号

論文

- 須藤 健一：ミクロネシアの養取慣行——族制，土地所有，分配体系との関連で—— …… 245
- OMORI, Motoyoshi: Violence and Legal Sanction in an East African Town…………… 282

資料・研究ノート

- 石森 秀三：マオリ研究の系譜とその展開…………… 306
- 伊藤 幹治：慶良間群島の祭団連合——沖縄の民族宗教ノート(1)—— …… 336
- 中村俊亀智：中部地方タケカゴ細工の諸相——日本列島におけるカゴ細工の諸系列(3)—— …… 351

調査研究活動報告

- 黒田 悦子：アメリカ合衆国にラテンを求めて
——ニュー・メキシコからメキシコへの旅—— …… 377
- 加藤 九祚：ブルガリア民族学の旅…………… 393
- 石毛 直道：国立民族学博物館ハルマヘラ調査隊概報…………… 423

2巻3号

論文

- 吉田 集而：ハルマヘラ島における民俗方位の構造…………… 437
- 松山 利夫：野生堅果類，とくにトチノミとドングリ類のアク抜き技術とその分布…………… 498

資料・研究ノート

- 大給 近達：人間関係における認知の形式に関する一考察
——アマゾン，カマユラ族の親族事例——…………… 541

中村 基衛：ミクロネシア，ブルスク島における家屋と住まい方……………	565
藤井 龍彦：中央アンデス地帯の染織文化——その文化史的観点からの一考察——……………	590
中村俊亀智：近畿地方のタケカゴ細工——日本列島におけるカゴ細工の諸系列(4)——……………	605

2 卷 4 号

論 文

栗田 靖之：物質文化から見た現代家庭……………	643
秋道 智彌：伝統的漁撈における技能の研究——下北半島・大間のババガレイ漁——……………	702

資料・研究ノート

黒田 悦子：守護聖人の祭りにみられる民俗芸能について ——メソ・アメリカの例の比較の試み——……………	765
伊藤 幹治：古宇利島の聖地と折目——沖縄の民俗宗教ノート(2)——……………	790
中村俊亀智：中国地方タケカゴ細工の一側面——日本列島におけるカゴ細工の諸系列(5)—— ……	806
加藤 九祚：コスタ・ヘタグロフ著『オーソバ』——オセチア人の民族学的概説——……………	828

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認めたる者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万国博記念公園
国立民族学博物館内
国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限りに、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]
[Leach 1961: 123]
[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
 - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
 - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題(タイトル)、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』 13(4): 311-330。

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」 柳田国男編『日本民俗学研究』 岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

- 1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse.
In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language,
The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代のエクスタシー技術——』 堀 一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 2卷4号

審査委員

梅 棹 忠 夫
中 根 千 枝

祖 父 江 孝 男

編集委員

石 毛 直 道
加 藤 九 祚 (編集委員長)
垂 水 稔

伊 藤 幹 治
小 山 修 三
松 原 正 毅

編集事務協力

石 元 宏 勉

昭和53年1月25日印刷
昭和53年2月2日発行

非売品

国立民族学博物館研究報告 2卷4号

編集・発行 国立民族学博物館

〒565 吹田市山田小川41-1
TEL 06 (876) 2151 (代表)

印刷 中西印刷株式会社

〒602 京都市上京区下立壳通小川東入
TEL 075 (441) 3155 (代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.2 no.4
December 1977

KURITA, Yasuyuki

The Modern Japanese Family as Seen
through Material Culture

AKIMICHI, Tomoya

An Ecological Survey of the Slime-
flounder Fishery at Oma, Japan—
Optimal Fishing and Human Skills—

KURODA, Etsuko

Notes on the Fiesta Complex of a
Patron Saint in Mesoamerica—A Com-
parative Analysis with Emphasis on Data
from the Highland Mixe Village of
Tlahuitoltepec and Ayutla, Oaxaca,
Mexico—

ITOH, Mikiharu

The Sacred Groves and Rites of Kouri
Island—Notes on Folk Religion in
Okinawa (2).—

NAKAMURA, Takao

Basket-working in Japan (5): Chūgoku
Area

KATO, Kyuzo

Explanatory Notes and a Translation on
"OSOBA" by Kosta Hetagurov



National Museum
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X